

Title	『慶應義塾大学文学部開設百周年記念論文集II』発刊の辞
Sub Title	
Author	海津, 忠雄
Publisher	三田哲學會
Publication year	1991
Jtitle	哲學 No.92 (1991. 4) ,p.1- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000092-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000092-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 『慶應義塾大学文学部開設百周年記念論文集Ⅱ』

### 発 刊 の 辞

三田哲学会会長 海 津 忠 雄

慶應義塾大学文学部は 1990 年に開設百年を祝い、三田哲学会は『哲学』第 91 集を記念論文集として同年 12 月に刊行した。それには哲学・倫理学・美学美術史学・社会学・心理学・教育学・人間科学、7 専攻の専任教員の論文 27 篇が寄稿されたほか、往時『哲学』の評価を高めた名誉教授による座談会とエッセー 10 篇をいただき、さらに学問の未来像を描く座談会をも合わせて、優に 600 頁を越えるものとなった。それでもなお寄稿論文のすべてが収まらず、引き続き『哲学』第 92 集を「慶應義塾大学文学部開設百周年記念論文集Ⅱ」として編集することにして、1990 年度内の発行を目指したが、現下の印刷事情等、諸般の事情により、ようやく年度が改まって刊行される運びとなった。かくして本号に収められたのは、哲学・美学美術史学・心理学・教育学各専攻の専任教員の論文 8 篇と座談会 3 篇である。

本号の刊行が遅延する間に小泉 仰前会長が定年退職されたので、拙文をもって記念論文集続編の巻頭を汚すめぐり合わせになった。私事にわたくつて恐縮であるが、斎藤幸一郎名誉教授が前号に寄稿されたエッセー「三田哲学と私」で述べられているように、本誌表紙・裏表紙の題字「哲学」と PHILOSOPHY のレタリングは 30 年前の愚作である。秘していた悪事が露見した思いもあるが、私がもし同題のエッセーを求められたら、や

『慶應義塾大学文学部開設百周年記念論文集Ⅱ』発刊の辞

はりこのことを告白したであろう。顧みれば、あれは『哲学』が会員諸賢の活躍によって内容が充実するのに合わせ、装丁も一新したいという空気が三田哲学会内に横溢していた頃であり、周到に準備された改装であった。熟慮と協調に基づく改進は、今後の三田哲学会にも求められることであろう。